

令和4年度 生命環境学部 環境デザイン学科  
学校推薦型選抜 小論文

[注 意]

- 1 机上に受験票を提示しておくこと。
- 2 監督者の指示があるまで、この冊子を開いてはいけない。
- 3 解答は必ず別紙の解答用紙の指定された箇所に記入すること。
- 4 解答用紙に受験番号・氏名を必ず記入すること。  
受験番号・氏名が記載されていない答案は無効となる場合がある。
- 5 この冊子は、問題12ページおよび解答用紙3枚からなっている。
- 6 この冊子のうち、落丁・乱丁、印刷の不鮮明な箇所があれば、手をあげて申し出ること。
- 7 字数制限のある解答では、句読点やカッコ、数字はそれぞれ1字として数える。
- 8 問題冊子は持ち帰ること。

1 次の文章を読み、以下の問1から問3に答えよ。(100点)

(著作権の関係で不掲載)

(著作権の関係で不掲載)

## (著作権の関係で不掲載)

(出典：日本の近代・現代を支えた建築—建築技術 100 選—委員会『日本の近代・現代を支えた建築， 建築技術 100 選』一般財団法人日本建築センター， 2019 年)

注 1) オルタナティブ：「既存のもの， 主流となっているものにかわる代案， 代替物」の意。

注 2) サービスハウス：食事や清掃等住生活に必要な仕事を第三者が提供する仕組みをもつ居住形態で， 寮や老人ホームなどの居住施設が該当する。

注 3) シェアハウス：1 軒家に他人同士で住むなど， 家族関係にはない複数の者が個室等の専用スペースを除く居住空間や住宅設備を共用する居住形態を指す。

問1 上記文章中の小見出しの①～③に入れる言葉としてもっとも適切なものを，ア～エのうちから1つ選び，記号で答えよ。

- ① ア オルタナティブな暮らしを目指す住まい      イ 北欧の最先端住宅  
ウ 「ふれあい住宅」から「かんかん森」へ      エ 生活単位の個人化に対応する住まい
- ② ア 構想と成果      イ 理想と現実      ウ 失敗と教訓      エ 意義と限界
- ③ ア 困難性      イ 可能性      ウ 両義性      エ 未来

問2 下線部④で描かれた居住形態とコレクティブハウジングでは，共用空間が生まれる理由や成立する条件がどのように異なるのかを400字以内で説明せよ。

問3 次の図1ならびに写真1，2は，本文で触れている「かんかん森」のものである。ここでコレクティブハウジングの特徴がどのように具現化されているかを400字以内で説明せよ。

(著作権の関係で不掲載)

図1 「かんかん森」平面図<sup>注2)</sup>

注1) ▲の印は専用住戸へのアクセスを示す。

注2) 平面図とは床面から1.5メートル程度の高さの水平断面を表したものである。

(出典：図は日本建築学会編『コンパクト建築設計資料集成[住居]第2版』丸善出版，2006年をもとに一部加筆して作成，写真は前掲書より抜粋)

2 以下の問1から問3に答えよ。(50点)

問1 次の文章を読み、300字以内（日本語）で要約せよ。下線を引いた語句には、末尾に訳語を掲載している。

(著作権の関係で不掲載)

## (著作権の関係で不掲載)

(出典： *The Japan Times Alpha*, May 14, 2021, ただし, 出題の都合上, 原文の一部を変更している。)

注) surreal : 非現実的な, grapple with : 取り組む, anxiety-provoking : 不安をかき立てる, commissioned by *The Straits Times* : ザ・ストレーツ・タイムズ誌に委託された, respondents : 回答者, gatherings : 集まること, at any one time : 常に, to a certain extent : 幾分かは, mitigate : 軽減する, ease : 気楽さ, commute to ~ : ~に通勤する, poll : アンケート, alternate weeks : 隔週, knock-off time : 終業時間, lamented : 残念がった, turned ~ topsy-turvy : ~を完全に混乱させた, less desirable : より好ましくない, anecdotes : エピソード, keep track of ~ : ~を把握する, speaks : 物語る, indeed : 本当に, when the situation calls for it : 状況に応じて

問2 次の文章を読み、150字以内（日本語）で要約せよ。下線を引いた語句には、末尾に訳語を掲載している。

（著作権の関係で不掲載）

（出典： *The Japan Times Alpha*, September 18, 2020, ただし、出題の都合上、原文の一部を変更している。）

注) have embraced : 取り入れた, tackling : 取り組んでいる, minor : ちょっとした, lumber : 木材, back deck : 家の裏のデッキ, are ~ seduced : ~に誘惑される, power tools : 電動工具, the scent of fresh-cut lumber : 切りたての木の香り, cooler : クーラーボックス, shaded by ~ : ~で日陰になった, cocktails : カクテル (アルコール飲料の一種), ukulele : ウクレレ (楽器の一種), commissioned ... to ~ : ...に~を任せた

問3 コロナ禍の影響によって週に数日在宅勤務となった, 子どもをもつ母親の家庭を想定した場合, その生活はどのように変化したと考えられるか。そして, その変化によって住空間にはどのような問題が生じていると考えられるか。また, その問題を改善するために住空間をどのように改変すればよいか。合わせて300字以内(日本語)で具体的に論じよ。

3 以下の図1, 図2は, 全国と各都府県(一部抜粋)における老年人口(65才以上の人口)と高齢化率(当該地域の全体の人口に対する老年人口の割合)の推移を示したものである。2015年までは実績値で, 2020年以降は推計値であり, グラフの左側の縦軸に老年人口, 右側の縦軸に高齢化率をそれぞれ設定している。以下の問いに答えよ。(50点)

問1 高齢化率と老年人口の推移に着目すると, 両者の推移にはどのような違いが見られるか。また両者の推移に違いが生じているのはなぜだと考えられるか。合わせて150字以内で説明せよ。

問2 老年人口の推移に着目すると, 各都府県は大きく2つのグループに分けることができる。それぞれどのような特徴を持ったグループに分けられるか, 図1, 図2をもとに説明せよ。またそれら2つのグループを構成している都府県は, それぞれどのような共通点を有しているかについても記述せよ(合わせて150字以内)。

問3 問2で分けた2つのグループの地域では, 今後, 建築に関連する問題としてどのようなことが起こりうるか。図1, 図2をもとにそれぞれの地域で想定されることと, それに対するあなたの考えを合わせて500字以内で記述せよ。

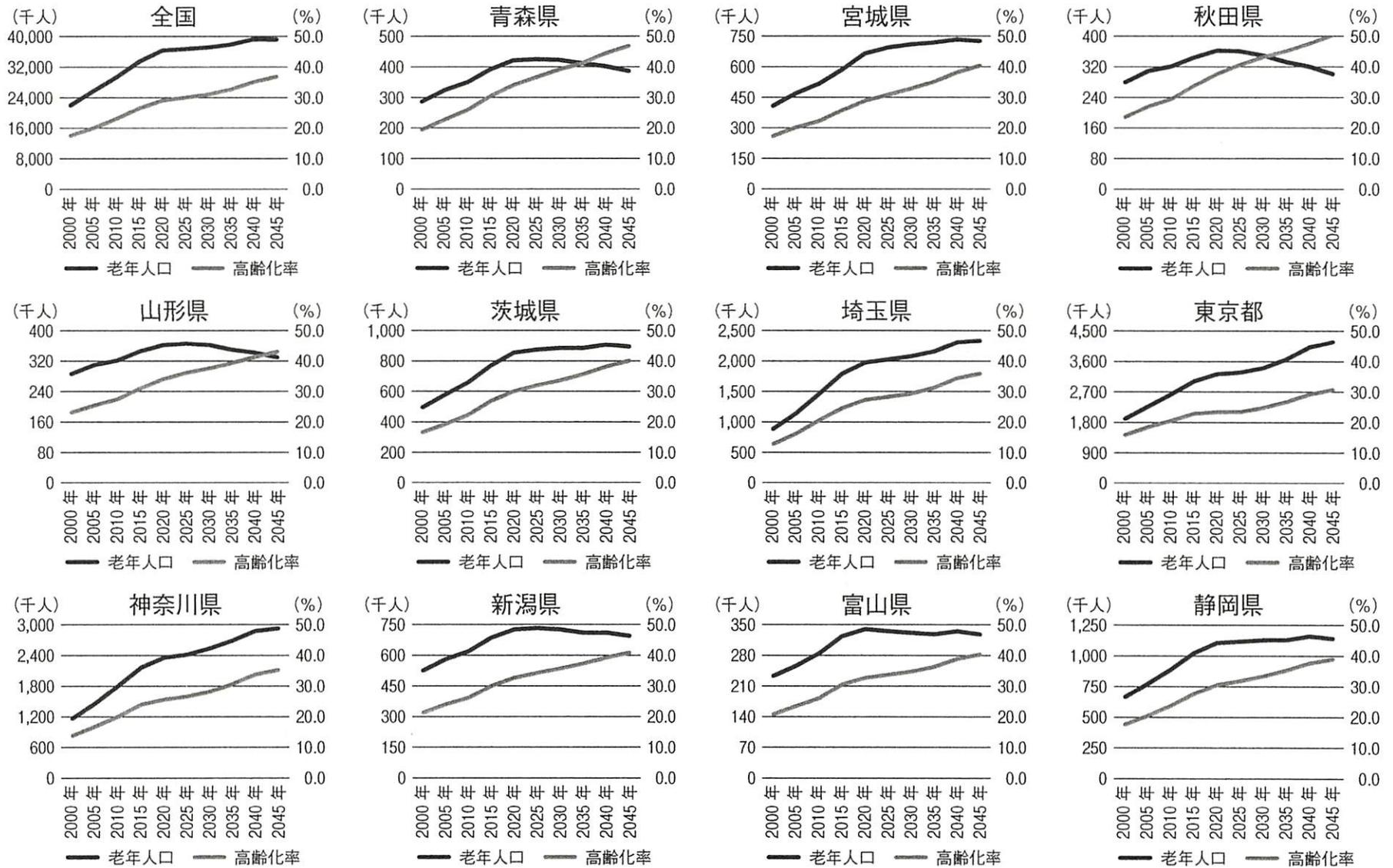


図1 全国と東日本の都県における老年人口と高齢化率の推移

(出典：総務省統計局「国勢調査報告」, 国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口(平成30年推計)」)

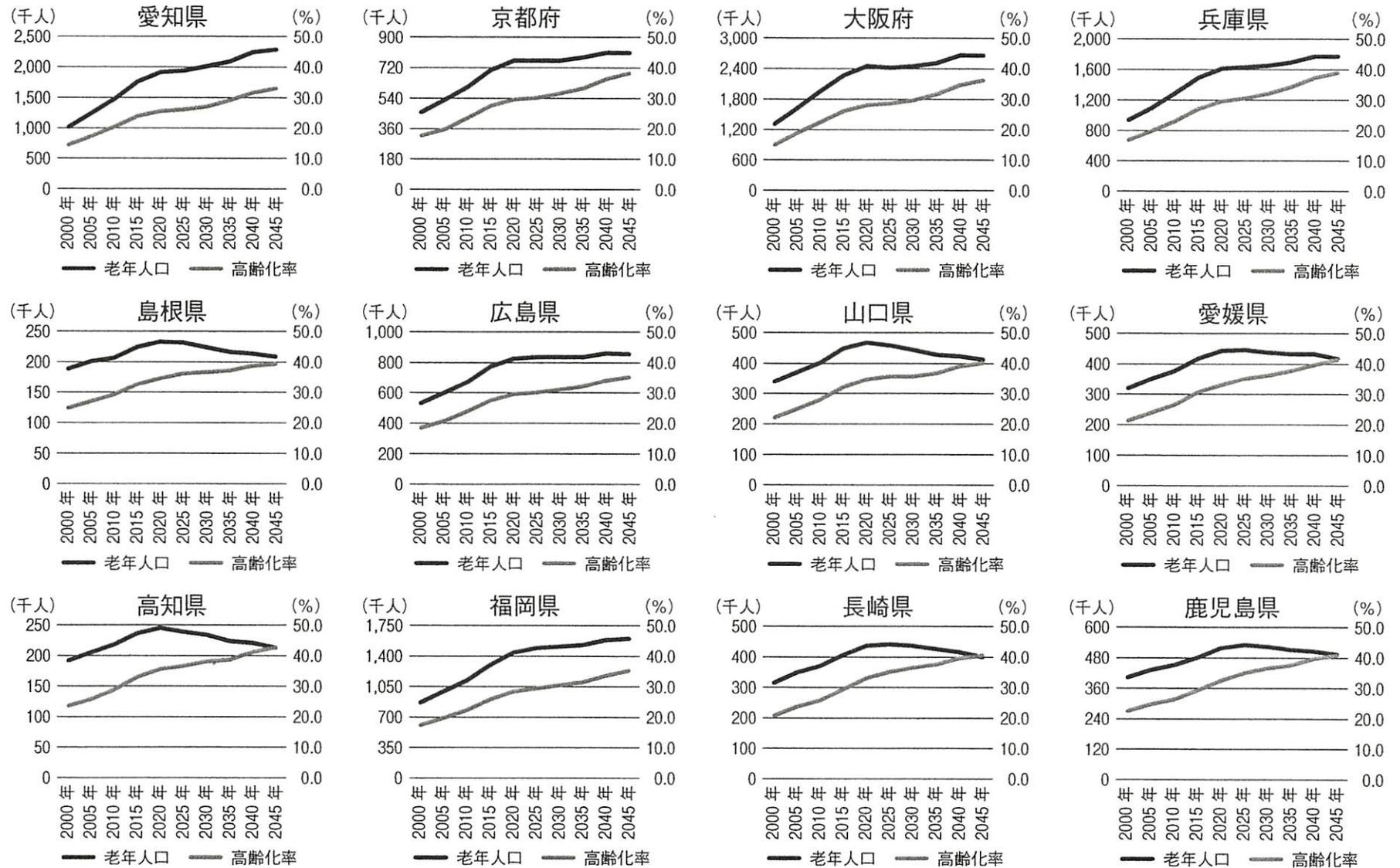


図2 西日本の府県における老年人口と高齢化率の推移

(出典：総務省統計局「国勢調査報告」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（平成30年推計）」)